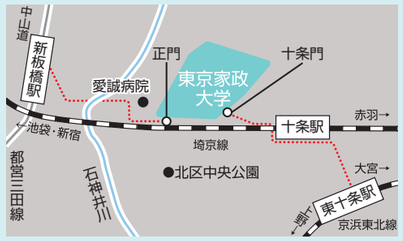
Access



板橋キャンパス

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1



●JR埼京線「十条駅」から徒歩5分
●地下鉄都営三田線「新板橋駅」から徒歩12分
●JR京浜東北線「東十条駅」から徒歩13分



狭山キャンパス

〒350-1398 埼玉県狭山市稲荷山2-15-1



●西武池袋線「稲荷山公園駅」から徒歩3分

高大連携に関するお問い合わせ

人をつなぐ専門力
東京家政大学
TOKYO KASEI UNIVERSITY

教学改革推進部
〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
TEL 03-3961-5569／E-Mail kyougaku-k@tokyo-kasei.ac.jp



栄養学部
栄養学科
管理栄養学科

児童学部
児童学科
初等教育学科

共創デザイン学部
服飾美術学科
造形表現学科

人文学部
英語コミュニケーション学科
心理カウンセリング学科
教育福祉学科

社会デザイン学環

文化情報学環

健康科学部
看護学科
リハビリテーション学科 作業療法学専攻
リハビリテーション学科 理学療法学専攻

子ども支援学部
子ども支援学科

高大連携プログラムのご案内

Growing up!









東京家政大学で一緒にグローアップ！
Growing up!

高校では学べないことを体験するプログラム

高校での学び ＋ 高大連携プログラム → 未来をつくる力

ご　挨　拶



東京家政大学
東京家政大学短期大学部
学長 井上 俊哉
Shunya Inoue

東京家政大学は、校祖・渡邊辰五郎先生が明治14年（1881年）に開設した「和洋裁縫伝習所」をルーツとし、女性が経済的・精神的に自立できるよう支援するために設立されました。渡邊辰五郎先生は、裁縫技術を教えるだけでなく、自分と周囲の人々の幸福をともに考える社会にとって有為な人材を育成しようと考え、身につけたスキルを他の人たちにも伝えられるよう、教員としての教授法を教えることで広く社会に貢献することを目指しました。今や卒業生が設立した学校は国内外で100校に上ります。

現在、地球規模での環境問題やジェンダー問題、人種や宗教の違いによる紛争が後を絶ちません。これらの課題解決に向け、国連はSDGsキャンペーンを実施していますが、本学ではターゲット5（ジェンダー平等を実現しよう）はもとより、ターゲット3（すべての人々に健康と福祉を）、ターゲット4（質の高い教育をみんなに）の達成に貢献できる人材の育成に努めています。

本学の教育活動の成果を高校の教育現場で活かしていただくことで、高校教育と大学教育の円滑な接続や生徒の皆さんの進路決定等に寄与

Growing up! 01 体感する 学科体験プログラム

大学の授業ってどんな感じなんだろう？高校の授業と比べて難しいのかな？大学のまなびについて、様々な疑問や不安があると思います。学科体験プログラムは大学教員による授業を実際に受講することで、そんな不安を解消できるプログラムです。各学科の特長が理解でき



［プログラムスケジュール例］

健康科学部 看護学科

9:10	学科紹介
9:40	動画視聴「看護学生の一日」
10:00	ミニ授業「看護技術の演習」
11:00	体験授業「小児看護方法論」
	“プレパレーション”
12:00	図書館の説明
12:50	昼食・動画視聴

Growing up! 02 出会う キャンパス見学会



どんな方でも参加できるオープンキャンパスと異なり、連携先の高校だけを対象としたオリジナルのキャンパス見学会です。その為、プログラムの順番を待ったり、席が後ろで説明がよく聞こえなかったりといったトラブルの心配もありません。自然豊かで広大な東京家政大学のキャンパスをゆっくりと見学することが出来ます。また、ご相談いただければ、学科体験プログラムや在学生と

Growing up! 03 学ぶ 出張講義



大学の授業を体験するには「オープンキャンパス」に行けば模擬授業を受けることが出来ます。しかし、定員制限があって申し込めなかったり、課外活動と日程が重なったりと参加できないことも。東京家政大学では各学科の教員が直接高校へ出向き、講義を行っています。授業は勿論ですが、学科やその専門分野への質問や

Growing up! 04 広げる そのほかの教育活動



図書館利用

図書館は授業レポートや研究論文の作成、さらに定期試験時等には多くの学生が利用しています。板橋キャンパスの図書館（蔵書数は約40万冊）を夏休み等の期間限定で連携先高校の生徒の皆さんにも利用して頂くことが可能です（但し、



「探究学習」への支援

高校の新課程で新たに導入された総合的な探究の時間。「課題設定」から「情報収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」までの学習サイクルを通して主体的に学ぶ姿勢を身につけることが重要です。大学の教育研究の知見を活用して「探究